

INACHO ROTARY WEEKLY NEWS

事務所：長野県伊那市狐島4288番地 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158
 会長：小川秋實 副会長：唐澤敏治 幹事：小向誠一



2014-2015 国際ロータリーのテーマ

ロータリーに輝きを

Light up Rotary

2014-2015 RI会長
 デイリーC.K.ホアン
 台湾台北



第1288回 例会 平成26年11月4日(火)

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 君が代・奉仕の理想・四つのテスト 馬場秀則ソングリーダー



■ ゲスト・ビジター紹介 支援留学生 沈昱東さん

■ 会長談話 小川秋實会長



前回の談話で、「しんにょう」には「1点しんにょう」も「2点しんにょう」もあり、また「くねくね」を付けても付けなくてもよいこと、つまり、一つの字体のみが正しいということはないとお話しました。

情報機器の漢字は、「JIS漢字」です。「かつしか」と入力すると、「葛」の字の左下が「人」と「L」となっているときは新しい「JIS漢字」、「ヒ」となっているときは古い「JIS漢字」が入っています。どちらも正しい字です。

字体は、「辞書に印刷されている形が正しい」というのは誤りです。辞書の字は明朝体です。明代から清代にかけて、印刷用の活字は、手書きの楷書体のように彫るのは難しかったので、縦横がきちりした字体が生まれました。横の線が細く、縦の線が太く、線の端に「うろこ」や「ひげ」と呼ばれる飾りがつきます。印刷したときに字が美しく見えるようデフォルメした字体です。たとえば、教科書体の「之」は3画ですが、明朝体では「ひげ」がついて4画の「之」になります。このように、明朝体は教科書の字体と違うものが少なくありません。

手書き文字は様々な書き方が許されていて、唯一の正しい字体はありません。「はね」や「止め」または線の長短などについても決まりはありません。当用漢字字体表(昭和24年)が公布されたとき、「本表の字体は活字用であり、筆写(楷書)を拘束しない」と記しています。

漢字には本来、固定された筆順はありません。小学校で教えている筆順は、「筆順指導の手引」(昭和33年)に沿ったもので、これは書道の立場、すなわち、文字の美しさの観点からの筆順です。「必」の字は、手引では、「点」つぎに「ノ」と書きますが、中国は、「心」に「ノ」と書きます。かつての日本もそう書いていました。手引では、「右」は「ノ」が先、「左」は「一」が先ですが、中国では、どちらも「一」からです。どのように書いても間違いではないということです。

■ 慶 祝 11月誕生日祝い

・30日 伊澤和男会員 ・30日 唐澤千明会員



■ ニコニコボックス

- ◆小川秋實 孫娘の七五三の祝いに参加しました。
- ◆伊澤和男 誕生祝ありがとうございます！ いい天気ですネ～
- ◆唐澤稔 沈昱東君、歓迎致します。11月に入り山の紅葉もあざやかにになりました。朝夕寒さも厳しく、健康に留意して下さい。
- ◆兼子展世 文化財審議委員に推挙されました。高遠時代に引き続き45年間程連続です。伊那市の文化財を発掘し、研究の成果を出し、登録に努めたいと思っております。
誕生祝いありがとうございます。
- ◆唐澤千明 秋本番となり紅葉も美しくなってきました。朝の気温も一段と低くなってきましたが、皆さんお体に気を付けてお過ごし下さい。
(発表 伊藤幸明委員長)

■ 幹事報告

小向誠一幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告



「ロータリーの友」11月号紹介 雑誌担当 小林富夫会員

『未来予測について 何をすべきか何をしてはいけないか』

経済学者ピーター・ドラックが「断絶の時代」の中で①新しい知識社会②グローバル化の進展③多様な価値観「多元価値」が近未来に登場すると紹介。世界の人口が2011年には70億人・2050年には100億人と的確に予想されていた。食料は、粉文化を継承すれば世界の人口130億人までは維持できそうだ。「成長の限界」環境汚染が2030年にピークを迎えるだろう。PM2.5、放射能汚染等が進行すると予想。今から世界的に対策を打たないと危険信号がともる。今後の変化の中では、①テクノロジーの急激な変化②急激なグローバル化③長寿化④家族・社会の核家族化⑤エネルギーと環境問題と指摘されている。今世界人口の50億人がインターネットで結ばれる時代（アルファベットと@）日本文字は無い。21世紀はNPOとNGOの時代を予測。それは、大企業と元気な中小企業の対極にNPOとNGOがある。テクノロジーが人間の労働力にとって代わる時代が見える。その上で、1970年代には想像が出来なかった中国とインドの急成長ますます加速されるであろうと予測される。都市化が世界中で進行中。今までのように国同士の戦いから都市同士の戦いに移るであろう。同時にバブルの崩壊と形成が繰り返されるであろう。今後絶対的長寿化が先進国の大問題となると予想される。又、多様な家族構成となり幸福感は相対的に弱まるであろう。エネルギーと環境破壊、温暖化により陸地が狭くなるであろう。しかし、私たちは根底では「何とかなるであろう・何とかなるさ」と思っている方が結構多いと予測される。今後、社会は安泰に暮らせるグループとものすごく苦しくなるグループとに分かれていくでしょう。これからは「ポツセ…同じ志を持つ仲間」「コ・クリエーション…共創」の時代。広く浅い知識では意味が無く専門的な知識が必要とされる時代（いわゆる職人的価値観）。又、これからは「死ぬまで働く時代」であり「年金とか退職金がもらえる時代」はとっくに去った。ゼロではないだろうが、おそらく到底食べていける時代ではないだろう。寄らば大樹的発想ではないと予想される。自分のワーク・ライフ・バランスを考えながら、やりたいことを見つけていくという事です。国の繁栄も都市の繁栄も、このクリエイティブ・クラスがどのくらいいるかで決まるでしょう。3つのTが重要だと主張しています。①技術②才能③寛容性。抛って、クリエイティブ・クラスの人たちが集まっている都市は、非常に所得が高く、そうで無い都市は所得が低く、同時に良い教育が出来ないため優秀な大学も少ない。ある程度お金が無いと良い大学に行けない。こういう事が連鎖し格差を余計に大きくしていきます。答えは、クリエイティブな人たちに投資する事が大切である。大学には「経営学」を強化する事が大切といわれている。良いリーダーを教育によって作り上げていくことが必要。最後に、文化・教育を盛んにすることは、その先に有る産業を育成する事に繋がっていきます。「文化を創り上げる」のは「人」であり、その根幹は全て「教育」にあります。街をつくり上げるには時間が必要です。結びとして伊那谷の繁栄には、行政を核に商・工・農が一体となり、より良い街づくりに邁進したいものです。その役割として、ロータリー（目的・精神・四つのテスト）のもつ、奉仕の精神と行動が必要となるであろうと思います。

■ 出席報告

会員数33名 出席免除会員8名 長欠会員2名 本日出席者20名 事前メイク2名
出席率78.57% 前回出席率 修正なし (発表 平澤理委員)

■ クラブフォーラム



「米山記念奨学会」 下井達典 米山記念奨学会担当会員

10月は米山月間でした。クラブフォーラムとして先週は米山奨学生王玉洪さんの卓話を聞き、“米山奨学生”への感心を深める機会としましたが、今週は米山奨学事業について理解を深める時間を頂きました。

前半は事業紹介のDVDを御覧頂き、後半は本日配付の“ロータリー米山記念奨学事業豆辞典”から勉強したいと思います。

◆DVD鑑賞－タイトル『ひろがれ！人づくりの輪 ～ロータリー米山記念奨学事業～』

◆豆辞典から抜粋

- ・ロータリー米山記念奨学事業とは
- ・ほかの奨学金との違いは？特長は？
- ・奨学生への提供金額は
- ・この奨学金（制度）への質問は
- ・ロータリアンの寄付について
- ・寄付金の優遇措置について
- ・寄付実績で決まる受入奨学生数
- ・地区の米山奨学生が決まるまで
- ・2600地区の奨学生割当数
- ・米山学友、学友会からの寄付金が増加中

(私事ですが、IACの台湾研修の研究生に受入RCに困っていましたが、台湾米山学友会に受入クラブ代りをお願いしたところ、快諾を頂きました。3520地区現地の各種状況連絡や玉蘭荘さんの紹介等、派遣受入から現地でのお手伝い等を熱心にして下さいました。

初派遣から充実の内容と結果になったのは、会の信条として「お世話になったロータリーに、日本に恩返しをする」を挙げて活動されている台湾の米山学友の存在があったからこそです。私は現在も感謝の念と恩返しの交誼を重ねています)

◆まとめ

以上のように米山記念奨学事業は日本のロータリアンによって生まれ、日本のロータリアン一人一人の寄付により支えられています。私は世界に誇る事の出来る日本ロータリーの奨学事業であると考えます。

会員の皆様にはこの奨学事業への関心と、事業運営の為の特別寄付について御理解と御協力をお願い申し上げます。



■ 理事会報告

小向誠一幹事



1. 年末家族会の招待者について
伊那剣心館の助成について
2. 11月の行事予定とメイクアップ扱いについて

■ 点 鐘

13:30

次回例会

11月11日(火) 点鐘 12:30 場所 海老屋料理店
クラブフォーラム(ロータリー財団)